

近世人物誌

やまご新聞附録第五

江藤新平氏
 氏ハ佐賀三平の志人として度々参議の要地を
 占めし、遂に方角を過して刀下の鬼となり、
 事ハ普人の知る所なきに費せし未だの耳
 事ハ事ハ揚げんことを拒み、前明治在年
 二月廿日東京新聞の初号發行の日當時彼
 本局に於て、吉堂第町二丁目から條野新平氏
 宅へ身を移し、然近の華美なる一官來り
 予ハ日本大政官に於て東京日々新聞と題せ
 新聞の發行するを聞て發行所を見せし、當家
 家を以て一言忠告爲し、度事ありて參り、今
 日ハ新聞紙の何れとせし併する者多かり
 けし、得る所ハ費を所を償ふべきを
 下然世の進歩不連て敗路を進めざる
 りの新聞、過るものありて之を維持せん
 忍耐あり、讀者を増かざるは効強あり、足
 下等此ニ不能、堪ふ一大商業とせん、十年
 期まゝ、其他歐米の新聞の光栄杯銀萬
 長々と議論し、予ハ本日、讀者の志ハあはけ
 りハ明朝、配附とし、速方とせん、序も亦
 事ハ事ハ順路に讀者を増せし、林園
 長ハ予ハ、菊田七十日の江藤新平氏、
 條野ハ、藤藤と聞誤り、伊藤某と仰り、
 なる、新平、かりの、小條野、
 ら、想を、任、
 て、心、
 歸、
 取、
 院、



發行所
 東京 京橋區
 尾形町式丁目
 やまご新聞社
 時住 眞隅 欣二
 編輯 人 長 友 平

第八
 堂
 活

刀活圖

